



検査科のつぶやき



第17号

2012年1月



検査科のつぶやき、第17回！！今回は検査データのお話No2です。

検査結果はもらったものの・・・何の検査なのか？
そんな、疑問にお答えする第二弾です。

血液一般検査	WBC (白血球数)	感染や炎症で増加します。
	RBC (赤血球数)	異常低値の場合は感染症にかかりやすくなります。
	Hb (血色素量)	
	PLT (血小板数)	少ないと血が止まりにくくなります。



白血球

赤血球

血液標本より、白血球などの血液疾患もわかります。

凝固因子って？
血液を固めたり、固まらなくなったり微妙に体内でコントロールしている物質です。体のなかでは血液はかたまりませんよね？
でも、怪我をした時には血液は固まります。そんな、バランスをとっている大切なものです。

凝固検査	APTT (活性部分トロンボプラスチン時間)	内因系の凝固因子の検査
	PT (プロトロンビン時間)	外因系の凝固因子の検査。

*凝固因子のほとんどが肝臓で作られるため、肝臓が悪くなるとデータは悪くなります。また、PTはワーファリンコントロールの指標として測定されることが多いです。

血液型検査 A・B・O・ABのABO血液型とRh(o)型の検査です。
ABO型は皆さんよくご存知ですが・・・Rh(o)は聞きなれないようです。
日本人の99.5%がRh(+)
です。



感染症検査	HBs抗原	陽性の場合には体内にB型肝炎ウイルスが存在することを示します。	
	HBs抗体		
	HCV抗体	陽性の場合には体内にC型肝炎ウイルスが存在すること	
	TP	梅毒の検査です。	
	RPR		
	HIV		AIDSのウイルス検査です。



検査ご希望の方はお気軽に外来受診時にお申し出ください！

検査科